

寺報 善 巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

※宗務院の秋※
十一月三日

報恩講 午前十時
導師 荻生 称名寺殿
講師 行信教校々長
利井 興弘師

落慶法要 午後二時
庭儀(おねり)
導師 荻生 称名寺殿
講師 上市 明光寺
土井 了宗師

初夜 午後七時
十一月四日

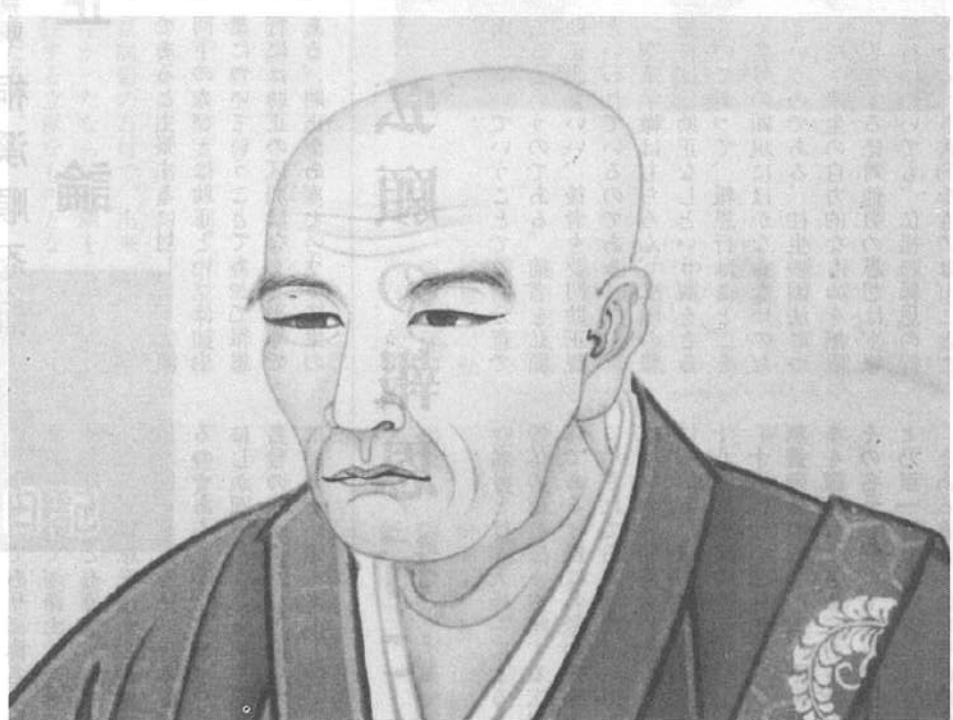
報恩講 午前十時
導師 当山 住職
講師 本山勸学、伝道院長
山本 仏骨師

寺族門徒総法要
午後二時 庭儀

明教院僧侶を語る門信徒の集い
午後七時

空華忌 午前十時
導師 空華一門
講師 勸学寮頭
桐溪 順忍 和上

宗祖大遠忌 午後二時 庭儀
御導師 大谷光照前門主猊下
講師 桐溪 順忍 和上



空華学轍の祖 当山第十一世明教院釋僧鎔法師

大谷光照前門主猊下御親修
親鸞聖人七百回大遠忌
明教院釋僧鎔二百回忌

昭和五十七年十一月三日〜五日

門徒の方々が、「明教院さま」と
発音される時、そのひびきの中に、
なつかしさとしたしさが感ぜられ
ます。「私達の明教院さま」と言う
ニュアンスで、二百年以前、浦山
善巧寺の住職として、門徒と対さ
れていた時の人間僧鎔の姿が浮か
び上がるのです。

前住は、次のように書いています。
「さうして実際の宗教家として
の行化の跡を残された口碑
や逸話に依って考へると、
学匠としては微を探り細を
穿ちて理路を辿る緻密な頭
腦の持主で、空華盧の僧約
でも分かるやうに、学問に
関する限り頗る厳肅で、身
を持すること慎ましい躬行
家であったが、街頭に立た
れると隣県の良寛和尚など
に見るやうな恬淡寡慾で、
酒脱にしてわだかまりのな
い、而かも慈愛の心に富ん
だ温情な聖僧らしい面影を
見るのである。」

今から二百年の昔、善巧
寺本堂は、未だ石をのせた
栗板葺きだったでしょう。庫裡の
いろりでは、音沢・栗虫の門徒衆
が運んで来た椿木が燃ぜていたで
しょう。
其処で門徒衆と対していた明教
院さまの姿は、どんな風だったで
しょうか。
裏の山から仲秋の名月が顔を覗
かせているのを外医の家で御覧に

明教院さま

なった時の文章が今残っています
が、その文体と云い、その筆蹟と
云い、人間、僧鎔の、味わい深い
風格が、目に見えるようで私の好
きな名文の一つです。

此の明教院さまの二百回忌法要
も、目の前に迫って参りました。
住職たる私としては、本当に感慨
深いものがあります。何よりも、
此の私は、百五十回忌と二百回忌
と、二回にわたって盛儀
に逢わせて頂けるのです。

前回は、二十才の若僧で、
亡父の采配の下で助手の
役をつとめました。
たしか昭和十年でした。
あの時の盛儀の一つ一つ
を記憶している御門徒も
今では残り少なくなつて
います。あの時は、父も
母も未だ元気だったし、
照行寺、法輪寺も精一杯
働いてくれました。此の
方々は、一人残らず他界
され、今では、私の脳裡
にかすかに残っているだ
けです。はからずも生き

のびて今回の法要を迎えます。此
の度は、前回にまさる盛儀が期待
されます。

御誘い合わせの上、空華の本領
發揮の大法要にご列席下さい。

住 職

雪山 俊之

明教院僧鎔は何を説いたか

空
華
と



明教院
僧鎔伝

空華学轍の思想

(八)

勸学寮頭 桐溪順忍師

助正論

空華学轍の特色のもつともよくあらわれているものの一つは「助正論」である。助正論は宗教生活の問題であるから、宗教者としては大切な問題であり、重大なものであるが、その生活の上にも絶対他力の思想に立つか否かで、考え方の相違が生ずるのである。

助正論は広島において大瀧門下と僧叙との争いによって有名になり、問題ともなったのであるがそれは、報恩行に助正ありや否やということであり、大いに議論されたのである。僧叙は弘願の報恩行に助正があり、正業といわれるものは称名であって、読誦等の四法は助業

であると主張するに對して、大瀧門下の人びとは助正というは往生業についていうことであつて報恩行には助正の区別はなく、平等である、助正があるというは往生の

弘願の報恩行に助正なし

因についていうことで要門分齊であるといふのである。前者を弘願助正説といい、後者を要門助正説といわれているのである。

空華学轍はもちろん、弘願の報恩行には助正なしという説をとるものであつて、報恩行はことごとく名号の顯現にはかならないのだといふのである。往生の因法について、衆生の自力的なものを無限に否定する絶対他力の思想は、報恩行についても、仏祖の報恩の行となるべき善的なものは、ことごとく

とく如来廻向のものであり、廻向の名号の顯現であるといふのは、その思想傾向からいって当然のことであらう。

第一弘願助正説において、南無阿弥陀仏の名号が称名にしか顯われないといふのは、あまりにも名号の意味を狭くとつていないか。もちろん、善導、法然の二師は称名に力を入れて、念仏とは称名にかざるものであり、称名に最高の価値を認めて、浄土教においては称名はもつとも価値あるものとされたが、報恩行にまで、称名の価値だけを高く意味づける必要があるのか。名号は称名だけにしか顯現しないという思想は、名号の意味を十分理解してはいえないのである。

されてあるのである。この文によると、名号とは十方恒沙の諸仏如来が讃歎したもう、無量寿仏の威神功德の不可思議なることであり古来「広讃」といわれるものである。もちろん、称仏名には「觀經」下品に説かれる「南無阿弥陀仏」と称えるものもあるのである。だから、先哲は讃歎には広讃と略讃とあるといわれ、少なくとも「大經」では名号とは広讃の名号となつてゐるのである。この意味からいへば、四十八願の中にいく度も「聞名」といわれるものは、第十八願成就文の諸仏の広讃の名号を聞くことだといふべきである。

名号とは「大經」によると、その仏の徳を広く讃嘆する広讃の意味である。經に名号の内容を明瞭に示されてあるものは、第十八願成就文の「聞其名号」のところだけである。その文は第十七願、第十八願成就文の

第三に「名号為体」の經なるが故にとある。すなわち「大經」が真実教といわれるのは、第一には釈尊の出世本懷の經であるから、第二には一切衆生を無条件で救う第十八願が中心の經であるから、第三には、名号を体質とした經であるからと説かれてある。この「名号を体とする」ということは、その經のどの部分にも名号の行きわたつた經であり、經の全部が名号讃歎にほかならないという意味である。この意味からいへば、釈尊

寺
こよみ

十月

- 一日 お講 板屋 実行委員会
- 一〇日 雪ん子劇団、富山こどもフェスティバル出演。
- 一六日 お講 三田市 実行委員会
- 一七日 実行委員会
- 一八日 野あがり落語会 迎えて
- 第三回の若手落語、今回は古今亭朝太、入船亭扇好に奇術の花島世津子に加わつてにぎやかに午後七時半、開演です。
- 二四日 実行委員会
- 三一日 実行委員会



が説かれた「大經」は、阿弥陀如来の徳の広讃にほかならないのであるから、私たちが読経するといふことは、釈尊が名号の広讃をなさつたのを口まねしているのだから、略讃の称名と同じ意味だといつてよいのである。

このように味わつてくると、読誦は名号の広讃であり、称名は名号の略讃であるから同価値のものといえるのではないか。讃歎についても同様のことがいえるのではないだろうか。

(次頁へつづく)

聞法の秋 ご講師の顔ぶれ



桐溪、順忍和上 富山
県八尾生まれ、京都宇治
市住。竜谷大学研究科を
卒業。中央仏教学院講師、
竜谷大学教授を経て、現
在、同大学名誉教授で、本
願寺勸学寮頭（本山宗学
の最高責任者）自ら、空
華末学と名乗り、他の主

弘願助正では、称名だけが名号
の顕現であって、読誦・觀察・礼
拝・讃歎供養は、如来廻向の名号
のあらわれた称名に随伴して、人
間の本来有したものがあらわれる
ので、名号の顕現は、ただ称名に
かぎるものであり、読誦等は名号

空華轍においては、衆生には本
来善根といわれるものは、まった
くないものだと言くものであるか
ら、報恩行という善的なものも、
私の本有のものではなく、如来廻
向の名号が微々としてあらわれる
ものだと言くのである。だから、
称える称名はもちろん、おがむ手
も、うなずく頭も、ことごとく如
来廻向の名号の顕現であるとい
うのである。したがって、報恩行
としては、同じく名号の顕現であ
るから、いずれの行も同一の価値
で主伴をつくべきではないと説く
のである。

大阪市住。幼時に両親をなくし、
苦勞して勉学、行信教校の利井興
隆和上にみとめられて、同校卒業。
竜谷大学研究科、宗学院等に聴講
して、現在、行信教校、竜谷大学

張に対しては「好意のないところ
には十分な理解はあり得ない」と
おっしゃるほどの「空華一徹」。八
十八歳。
おもな著書「正
信偈に聞く」「教行
信証に聞く」「親鸞
はなにを説いたか」
「救済の論理」
山本 仙骨師 金沢市に生まれ

丹後法眼蓮慈、衣裳ととのえら
れ、前住上人の御前に伺候し時
仰せられ候。衣の襟を御たきあ
へ、

のあらわれではないと主張するの
であるから、名号の広讃を許さな
いことになるのである。
南無阿弥陀仏の名号には、そん
なせまい限界をつけなければなら
ないものだろうか。蓮如上人が「御
一代聞書」に
万事に付て、よき事を思い付る
は御恩なり。悪いことだに思い捨
てたるは御恩なり。捨るも取るも
何れも何れも御恩なり
とある。この場合
の御恩というは「お
恵み」の意味である。
だから、この文は、
人間の一切の止悪も作善もことこ
とく如来のお恵みだと教えられる
ものである。また同じく「聞書」
には、

称える おがむ うなずく すべて名号の顕われ

りて。南無阿弥陀仏よと仰せられ
候。また、前住上人は、御たみ
をたたかれ、南無阿弥陀仏にもた
れたる由、仰せられ候いき。南無
阿弥陀仏に身をばまるめたと仰
せ候と符合申し候。
とある。蓮如上人は、しばしば
自分の所有する物に対して「如来
の御用物」とか「如来聖人よりた
まわられたるもの」と申されている
が、それがさらに深化すると南無

この蓮如上人の教示からいえば
名号は略讃の称名となつてあらわ
れるはもちろん、広讃の讃歎とし
て現われるだけではなく、私を生
かすための、あらゆる物とし
て顕現するものであるといえるの
である。だから、拝む手も、称え
る口も南無阿弥陀仏といった先哲
の言葉もうなずけるのである。
このように名号の顕現を拡大し
て考えると、名号の真実の

のではないかという非難は当然う
けなければならぬのではない。
名号は単に略讃としてあらわれる
だけではなく、広讃としてあらわ
れ、釈尊の広讃が三部経であり、
しかも、私たちが読誦する聖典は
ことごとく名号の広讃とすれば、
読誦することはそのまま名号の顕
現だということになるのである。
かく考えると、報恩行には助正
なしという思想が十分は認さるべ
きものである。

阿弥陀仏の具体的なあらわれであ
ると考えられていたようである。
それがお衣を南無阿弥陀仏とい
い、自分の
置を南無阿弥陀仏といひ、自分の
周囲をとりまくものはすべて南無
阿弥陀仏であると考えられていた
のである。

徳が発揮されるのであり、如来の
名号成就の意味も明らかになるの
である。もし、名号が称名にしか
顕現せないものであり、称名だけ
が報恩行の正行だとすれば、現実
の寺院の法要などにおいて、僧侶
は価値の低い助業を主としている

私がいままで教えられて来た、空
華学轍の学説の特色について述べ
てきたのであるが、宗学とは浄土
真宗においては、救われるものの
慶びの論理を示す学であり、救済
の論理の学であり、絶対他力の思
想によって進められる学問でなけ
ればならないと思われるのである。

教授、本願寺派勸学、伝道院長。
現代的な講話はファンを魅了して
やまない。
おもな著書「道徳教学の研究」
「現世利益の味わいと扱い方」「人
生の眼と足」「歎異抄のこころ」「観
無量寿経講話」
利井 興弘師 大阪府高槻市生
まれ。竜谷大学に学び行信教校を
卒業後、同校教授。現在、
同校校長。行信教校は創立
百年を迎える浄土真宗本願
寺派の私塾で、二百年前の
空華盧の流れをそのまま汲
んで、いまでも入含式には、

明教院僧侶の学則「僧約」が読
みあげられている。善巧寺若院の
父。
おもな著書「愛情の表現」「道
をもとめる人々へ」「光と花」「現
代真宗」「親鸞聖人その人」
土井 了宗師 富山市・明光
寺住職。竜谷大学文学部大学院修
士課程を修了。越中における真宗
史の研究に関しては右
に出るものがない。明
光寺は、明教院僧侶が
十歳から十年間学んだ
寺であり、さらにその
空華僧侶の流れを汲ん

だ同寺の行忠、
行照が全国に
空華学轍の思
想を広めると
いう偉業をな
しとけている。

今回事業の「空
華僧侶展」の監修と講師の両方を
願ひ、僧侶をより立体的に語って
いただくと思っています。



なお、「空華僧侶展」は、法要期
間中寺の本堂の裏廊下において開
催されます。

前門主猊下迎え宗祖七百回忌

■宗祖誕生 800年
慶びの春
◇57年4月29日

■宗祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年11月3～5日
聞法の秋

明教院僧鑑二百回忌 空華の学匠一堂に

聞法の秋——六年間、待ちに待った秋の大法要が、いよいよ、十一月三、四、五の三日間、浦山善巧寺で勤修されます。

大谷光熙前門主猊下をはじめ、桐溪順忍勸学寮頭、山本仏骨伝道院長、利井興弘行信教授長と、お出まし下さる先生方は、聞法の秋にふさわしい宗門最高の顔ぶれ。そして法要は、門徒の行列衆も加わって、三日連続のおねり。境内、本堂には大絵巻が繰り広げられることとあります。

十一月三日 前十時

報恩講

聞法の秋の幕開けは、三日午前十時の報恩講のおつとめから。導師は先生の称名寺殿。

講演は三日間徹底して「空華明教院僧鑑師は何を説いたか」をテーマにお願いするわけですが、そのトップバッターが行信教授長、利井興弘師「空華の仏性論」についてご講話をいただきます。

十一月三日 後二時

落慶法要

午後二時からは、落慶法要です。この六年間、門信徒の方々から、ひとかたならぬ厚情をいただいて、寺の器はじつに見事に荘厳さを増しました。大屋根、経蔵等の仮修理にはじまって、門徒集会所、空華殿、甘露室の新築、離れのしめ直し、そして本堂の新装、経蔵の移転、車庫建設、境内整備、さらに、内陣金柱、巻障子の新装、前卓、山号額、五具足新調など、この六年間で、善巧寺は生まれ変わったようでありまふ。このよろこびを、

落慶・寺族門徒総法要も

十一月三日 後七時

お初夜

寺の器とともに心の器を——と各地区で法座活動をすすめておりましたが、この夜は、そうした方々が一堂に会して、お正信偈（行讃）を高らかに読み、御伝鈔を拝聴し、そして、利井興弘師の「空華の仏性論」についての講話を聴聞いたします。

十一月三日 後七時

お初夜

十一月四日 前十時 報恩講
例年の報恩講のお満座の法要を住職の導師でつとめます。そして講師は、本山勸学、伝道

院々長の山本仏骨師「空華の行信論」についてわかりやすくお話いただきます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

十一月五日 後一時 達書伝達式
本山から、このたびの法要に対する、祝辞と記念品が樟原宏朗富山輪番より授与されます。

秋の法聞



委員長
総務

雪山 俊之
橋場 啓次
櫻 義孝
野崎 吉郎
船屋 幸弘
東狐 幸一
大野 弘恵
中坂 宗作
中坂 由松
山根清一郎
浦田 一郎
浦田 安次郎
板谷 正一
板倉 弘
鬼原次郎助
川内 貞義

橋場 正一、大藪 春男
中村嘉太郎 中村与四松
沢田 修
尾沢 初雄、鬼原 勝次
菊地 良造、佐々木与作
案内 本波 光雄、大藪富美子

準備着々 役員顔ぶれ

法要 本波 貫一、藤沢 正雄
中林 久吉、島田 松伊
浦滝 友一、岩上己之助
受付 植木幸次郎、根塚 卯一
榑沢 重盛、久田智登司
婦人会、日校卒業生

会場 岡田 実、森岡 昭二
弁当 新保 幸夫、白鶴会
接待 婦人会、白鶴会
警備 野畑 一雄
救護 川瀬 達也、婦人会
進行 会行事所、本部

記録 写楽の会
宿泊 佐々木繁作、佐々木助一
宴会 野村 五郎、野畑 松二
前門主付 住職
本山、別院、講師 橋場 啓次

法中 野島 重一、松平 源治
清水 久一
楽人 山本浅次郎、開沢 泰久
野崎 吉明
招待者 菊地 良造

寺
こよみ
十二月

九月二十三日 秋分の日。今にも降りそうな曇り空、四月に球根二つ埋め込んだカンナが、今を盛りと真紅の花を開いている。先日、京都へ行った時は、秋晴れの好日で、都の大路小路は運動会と墓参りの人々で賑わっていたが、今日の旗日、こちらは稲刈りで忙しい一日だろう。孫たちの小学校の運動会は、二十六日とか。

下立愛本からの寺詣り。男性ばかり十二名。年代が若くなり、話題も現代向きに変わって来ている。十一時頃から、ポツリポツリと雨。石工来寺。榑沢門徒の寄進者K氏の志で、門前入口に立



住職日記

芽出度う御座います 御祝一杯の気持ちで参詣させていただく日を楽しみにしております
昼食を済ませて、午後の法事に掛けける。御両親の法要で、列席者三十数名。兄弟衆夫々に働き盛りの年輩。浜松で事業を手がけている弟もあって、色々各地の状況が聞かれるのも、法要の余沢である。

此の部落には、善巧寺門徒三十数戸あり、一カ月後の明教院法要を控えてそれぞれに張り切っている。パーティ参加希望者あり、帰敬式は是非共御受

けし度いとお年寄りもあり、素人作りだが、大輪菊の一鉢なりと持参したいと言う方もある。座が賑わうにつれ、歌も出るようになり、近頃流行のカラオケまで出て来て、思わず盆を過す。

帰院四時。境内には、クレールン車が来て、銀杏の下に置かれてあった大石を石屋さんに運ぶ作業をしている。亡父の「在りし日の面影かたれ老銀杏樹」の句を彫り込んで、境内を飾る予定である。

就寝 十時

近江路はあの田この田の
曼珠沙華

台風の逸れて故里 曼珠沙華

一日 お講
二日 石田、報恩講
三日 愛本新、中ノ口、報恩講
四日
七日 下村、大橋、報恩講
十日
十一日 下立、愛本、報恩講
十五日
十六日 お講
一七日 内山、報恩講
一八日 音沢、報恩講
二五日
三〇日 日校もちつき
三十一日 除夜会

■宗祖誕生 800年
慶びの春
◇57年4月29日

■宗祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年11月3～5日
聞法の秋

告知板

帰敬式(おかみそり)

浄土真宗の門徒として、如来さまの前に帰敬の心をあらわす式で「帰敬式」といいます。親鸞聖人のお得度にならって、前門主さまからおかみそりを受け、法名をいただきます。

受式日は十一月五日午後一時。善巧寺本堂で。冥加金は三千円。申し込みは十月九日まで。近くの総代さんか、照行寺(⑤-10-12)まで。

お弁当をどうぞ

◎食事はどうか？ 全員聞法の

ご寄進

★山号 額 尾沢初雄さん、鬼原勝次さん、藤沢正雄さん、中山慶太郎さんの四人で本堂中央の欄間の上にかける大額を。明教院の二百回忌を記念して、揮毫は勸学寮頭、桐溪順忍和上で「空華」の二文字。十月末には完成の予定です。

★石柱 栃沢の開沢章一さん。門前に幅二尺、高さ十二尺のジャンボ石柱を。これまで寺の目印に

心を大切にして、今回の法要期間中の食事は一切弁当業者にまかせます。案内状持参の方には一人分差し上げます。他の方は当日業者の弁当が販売されますので、ぜひご利用下さい。

法要の行列入

出仕しましょう

◎行列出仕 三、四、五の三日間とも庭儀(おねり)の行列があります。三日は落慶法要で建設関係者と莊嚴寄進者。四日は内陣法名の施主。五日は総代及び有志の方。出仕料は男が袴の借賃をふくめて八千円。女が三千円。希望者は一刻も早く寺か総代まで申し込んで下さい。

キクの鉢を

貸して下さい

◎キクの鉢を貸して下さい。聞法の秋、キクの花も満開の頃かと思えます。境内を門信徒の方のキク

なるものがなく、県道を通り過す方も多かったのですが、こんどからは大丈夫。「浄土真宗、本願寺派 白雪山 善巧寺」と、あなたの背丈の二倍の石柱が十月中旬頃にはお目見えします。

お願い

法要まであと一カ月。寺は準備に大忙しでありますが、本堂の莊嚴などで、まだまだ足りないものもございます。心ある方は本部までご一報下さい。よろしくお願いいたします。

の鉢で埋めたいと願っていますので、十一月二日までに鉢に名前を書いてお持ち下さい。

内陣法名の

おすすめ

◎内陣法名 特別懇志のおすすめ十一月四日の法要は寺族と門徒の総法要です。行列には内陣法名施主に仕出いただきます。これをご縁に一口五万の特別懇志をおすすめします。

いはいへの案内

◎いはい、親戚への案内 この法要に是非あの人と呼んであげたいと思われる方がありましたら、お早目に住所氏名を寺までお知らせ下さい。案内状を送らせていただきます。

打ち上げパーティ

◎打上げパーティ 法要のあと、十一月五日午後六時から、前門主のご臨席をたまわり、空華の学匠を囲んで聞法の秋記念パーティを開催します。会場は宇奈月のホテルニューオータニで、参加キップは一口五千円です。これもお早目に寺の本部パーティ係にお申し込

野あがり落語会

10月18日

恒例の秋の野あがり若手落語会を今年も十月十八日午後七時半か

み下さい。

京都へお礼まいる

のバス旅行

◎京都へお礼言上 慶びの春、聞法の秋、当門様、前門様にお出ましたいたいたお礼言上にバスを仕立てて十一月九、十日と一泊二日で本山参拝聞法旅行を企画しています。明教院の生家、水橋の渡辺家や、上市の明光寺、そして京都大谷の勸学溪にある明教院のお墓へもお参りいたします。この企画は、なんと、明教院の生家、渡辺さん(旅行社勤務)のお世話で決まりました。みんなつんだって、いこまいか。

寺の報恩講

門徒のホンコさん

例年なら十月十九、二十日に寺の報恩講をおつとめしますが、今年は大要のため、十一月三、四日の日中の座でつとめさせていただきます。そして、門徒の報恩講は例年十月末からスタートしますが、これも法要の関係で日程がかなり変更になります。寺ごよみをよくご覧になって、ご理解のほどを。

ら、浦山善巧寺で開催いたします。出演はおなじみ入船亭扇好、古今亭朝太、それに色物は、若手奇術界のスター、花鳥世津子嬢。おさそい合わせの上、おこし下さいませ。

合掌

明教院僧録の百回忌は、明治十五年十月二日(旧暦の祥月)から五日までが善巧寺の法要で、五日から七日までは、門弟空華学舎の記念法要として執行され、前者には桐溪印順勸学、後者は龍沢芳流勸学がお越しになり、法要に際しては明如上人から御染筆をいただいたとあります。

百五十回忌は、昭和七年に龍谷大学にて記念会が催され、十年十一月三日より六日まで善巧寺において、竜谷大学長、花田勸学と空華学舎の勝山勸学にお越しただいておつとめしたと、前住職が記録に残しています。

そしていよいよ二百回忌。十一月三、四、五日の三日間にわたつとめられます。

大谷光前門主現下の御親修をはじめ、聞法の秋にふさわしく、空華の学匠、桐溪順忍勸学寮頭、山本仏骨勸学、利井興弘行信教校長、さらに空華一門の先生方も一堂に会して、僧録師の遺徳をしのびます。そらって、聴聞の座につかせていただきます。

花